

平成28年度全国学力・学習状況調査

<長崎県の結果の概要>

調査の概要

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施対象

県内国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

小学校調査...小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校調査...中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

国語、算数・数学

...主として「知識」に関する問題をA問題、主として「活用」に関する問題をB問題として調査

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題

(2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査期日 平成28年4月19日(火)

5 調査実施校数及び児童・生徒数

(1) 実施校数 509校(調査対象者の在籍する学校の総数 509校)

(小学校:331校、中学校:178校)

(2) 参加児童・生徒数

小学校6年生 約11,700人

中学校3年生 約12,000人

全国学力・学習状況調査「結果の概要」

1 平均正答率

< 県全体（公立小・中学校、県立中・特別支援学校） >

校 種	教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本 県	全 国	本 県	全 国
小学校	国語	72	73	57	58
	算数	78	78	47	47
中学校	国語	75	76	67	67
	数学	62	62	43	44

< 県立中学校（3校）の平均 >

教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
	本 県	全 国	本 県	全 国
国語	92	76	91	67
数学	91	62	80	44

< 参考 > 平成27年度の調査結果（公立小・中学校、県立中・特別支援学校）

校 種	教 科	A問題（知識）		B問題（活用）	
		本 県	全 国	本 県	全 国
小学校	国語	69	70	64	65
	算数	74	75	44	45
中学校	国語	76	76	66	66
	数学	64	64	40	42

平成28年度の数値は文部科学省が公表したデータによる。

平成27年度の数値は文部科学省が公表したデータをもとに整数値に変更したもの。

2 結果の総括

本年度は、小学校算数のA問題・B問題、中学校国語のB問題、中学校数学のA問題において、全国平均と同程度であった。他の調査では全国平均を下回ったものの、その差は1ポイント程度であり、昨年度よりも概ね改善されている。

これまで課題であった、理由や根拠を示して文章で記述する問題は、国語において改善傾向が見られるものの、全体的に今後も継続して取り組むべき課題である。

他者への思いやりなどの道徳性が高く、学校生活を肯定的に捉えている。

3 各教科の状況

：改善または定着が見られる事項 ：課題となる事項

()内は問題の番号

< 小学校国語 >

平仮名で表記されたものをローマ字で読む、書く (A⁸)

目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く (B²二)

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む、書く (A¹)

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む

(B³三)

別添資料1

< 小学校算数 >

1 m²あたりの人数を求める (A⁴)

バスの定員と乗車人数の割合を、百分率を用いた図に表す (A⁹2)

示された式の中の数値の意味を書く (B²3)

2つのグラフを見比べて読みとった事柄が正しくないわけを書く (B⁴3)

別添資料2

< 中学校国語 >

相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す (A⁵一)

文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く

(B¹三)

目的に応じて資料から必要な情報を得る (A⁸二)

本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く

(B³三)

別添資料3

< 中学校数学 >

2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表す (A³4)

与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理することができる (B¹1)

数量の関係を文字式に表すことができる (A²1)

式やグラフを用いて、問題解決の方法を説明することができる (B³3)

別添資料4

4 質問紙調査の状況

<学習状況・生活習慣等の調査結果について>

- ・「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」と思っている児童生徒の割合は、昨年度までと同様に非常に高く、全国平均を上回っている。また、今年度の新たな質問である「人が困っているときに進んで助けているか」についても、全国平均を上回っている。
- ・「学校に行くのは楽しい」「友達に会うのが楽しい」「好きな授業がある」とする児童生徒の割合は、全国平均を上回っており、学校生活を肯定的に捉えている児童生徒が多い。
- ・「テレビゲームの使用が1時間未満」「携帯電話やスマートフォンの使用が1時間未満」の児童生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ・「月～金において、授業以外に2時間以上の学習」をしている中学生の割合は、昨年度までと同じく全国平均を下回り、かつ、減少傾向にある。
- ・基本的な生活習慣が確立されている児童生徒の割合は概して高いものの、「毎日、朝食をきちんと食べている」小学生の割合は年々減少傾向にあり、今年度初めて全国平均を下回った。

平成28年度 小学6年生・中学3年生の学習状況・生活習慣等の調査結果

(全国学力・学習状況調査 質問紙調査項目 85項目からの抜粋)

【道徳性や規範意識】

調査項目	小 学 校						中 学 校					
	H27			H28			H27			H28		
	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1 人の役に立つ人間になりたい	95.4	93.7	+1.7	95.0	93.8	+1.2	95.7	93.7	+2.0	95.0	92.8	+2.2
2 いじめはどんな理由があってもいけない	97.4	96.2	+1.2	97.3	96.6	+0.7	95.8	93.7	+2.1	95.5	93.6	+1.9
3 人が困っているときに進んで助ける				85.0	84.6	+0.4				85.0	83.8	+1.2

【学校生活について】

調査項目	小 学 校						中 学 校					
	H27			H28			H27			H28		
	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1 学校に行くのは楽しい	89.0	87.0	+2.0	88.0	86.3	+1.7	85.8	82.1	+3.7	85.4	81.4	+4.0
2 友達に会うのが楽しい				96.6	96.2	+0.4				95.9	94.7	+1.2
3 好きな授業がある				94.3	93.5	+0.8				82.4	79.9	+2.5
4 授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う	88.7	86.3	+2.4	88.5	87.6	+0.9	77.2	79.7	-2.5	86.5	84.9	+1.6
5 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う	77.5	75.3	+2.2	75.5	76.1	-0.6	58.7	59.3	-0.6	63.3	63.1	+0.2
6 国語の授業の内容はよく分かる	80.1	82.0	-1.9	78.3	80.7	-2.4	71.4	74.3	-2.9	72.0	74.1	-2.1
7 算数(数学)の授業の内容はよく分かる	82.8	81.0	+1.8	81.1	80.2	+0.9	72.0	71.6	+0.4	71.6	69.4	+2.2

【基本的な生活習慣など】

調査項目	小 学 校						中 学 校					
	H27			H28			H27			H28		
	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比	本県	全国	全国比
1 毎日朝食を摂取	96.2	95.6	+0.6	95.4	95.5	-0.1	95.4	93.5	+1.9	95.2	93.3	+1.9
2 授業以外に1時間以上(中学校は2時間以上)の学習をしている(月～金)	67.3	62.7	+4.6	65.7	62.5	+3.2	33.9	35.7	-1.8	29.8	34.2	-4.4
3 テレビやビデオ、DVDの視聴時間が1時間未満(月～金)	14.7	15.4	-0.7	14.0	15.9	-1.9	16.7	16.6	+0.1	20.4	20.5	-0.1
4 テレビゲームの使用が1時間未満(月～金)	52.7	45.3	+7.4	53.7	45.1	+8.6	51.6	42.0	+9.6	54.1	42.9	+11.2
5 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットの使用が1時間未満(月～金)	86.9	83.1	+3.8	85.2	81.5	+3.7	62.4	52.1	+10.3	61.0	51.9	+9.1

三 谷口さんは、パン職人の仕事について、「特に心に残ったこと」を中心に紹介したいと考えています。そこで、「資料2」を読み直しながら、紹介したいことをメモにまとめています。次の「資料2」をもとにしたメモの一部」の [] の中に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

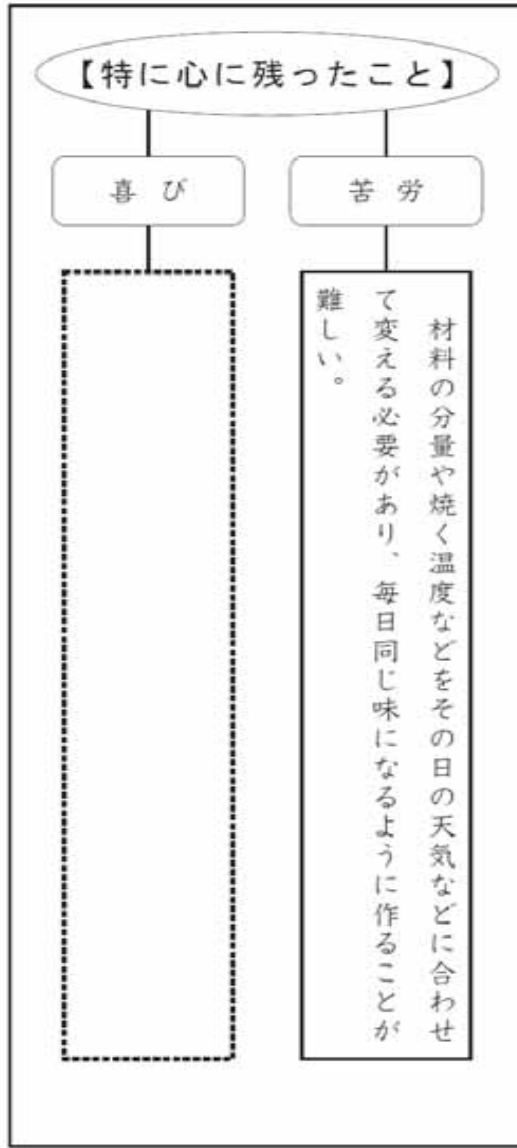
【特に心に残ったこと】

毎日、天気に関わらず同じ味になるように作るのは、とても難しいことだけれど、お客さんが喜んでくれた時には、やりがいを感じる事ができるんだな。



谷口さん

【資料2をもとにしたメモの一部】



〈条件〉

- 谷口さんの「特に心に残ったこと」が伝わるように書くこと。
- 「資料2」から取り上げて書くこと。
- 四十字以上、六十字以内で書くこと。

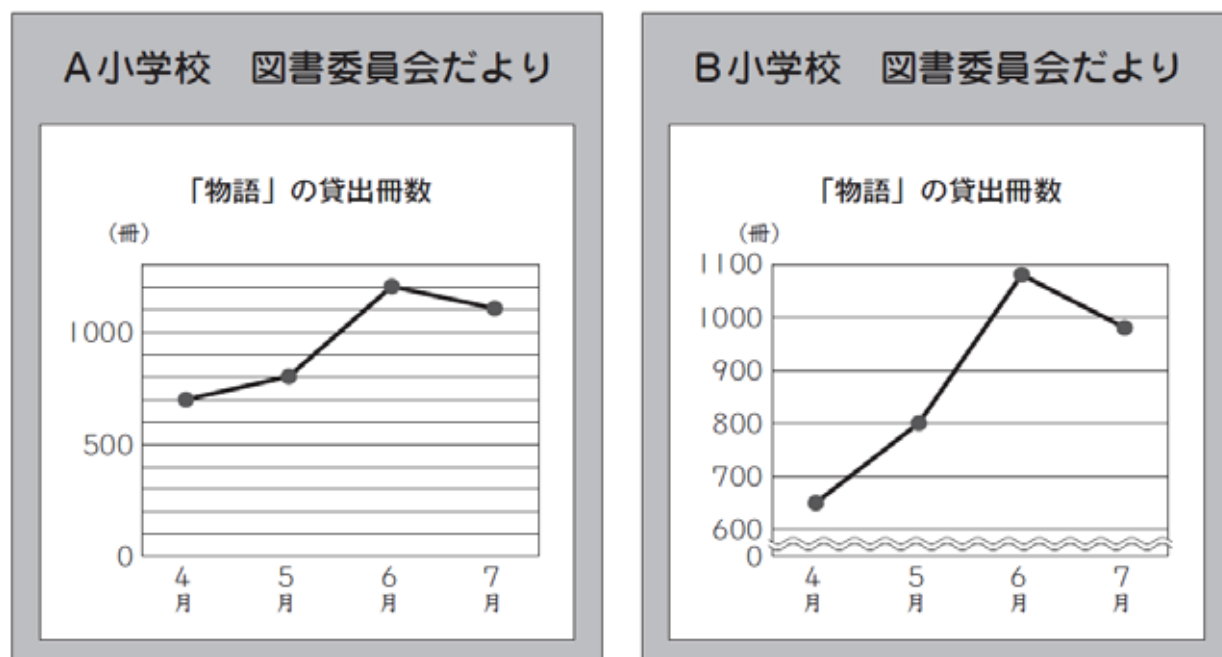
※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※◆の印から書きましょう。どちらうで行を変えないで、続けて書きましょう。

原稿用紙の縦書きグリッド。最上段の最初の四角には◆印がある。縦書きの行線と横書きの列線が描かれている。

60字 40字

4

- (3) 各学校の図書委員たちは、読書活動をすすめた成果を表すために、4月から7月までの4か月間の「物語」の貸出冊数の変化の様子を、それぞれ折れ線グラフにまとめました。



けんたさんは、上の2つのグラフの、5月から6月までの「物語」の貸出冊数の変化の様子を見比べて、次のように言いました。



けんた

A小学校に比べてB小学校のほうが、5月から6月までの線のかたむきが急です。

だから、A小学校に比べてB小学校のほうが、5月から6月までの「物語」の貸出冊数の増え方は大きいです。

けんたさんが言っている、——部のことは正しくありません。

そのわけを、グラフから読み取れる貸出冊数に着目して、言葉や数を使って書きましょう。

3

次の【物語の一部】と【図鑑の説明】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【物語の一部】

「()までのあらすじ」 少年時代、ランプの明るさに驚いた巳之助^{すけのすけ}は、ランプ売りになる。自分が売ったランプで、暗かった村の家々が明るくなっていくのを喜んでいたら、やがて町には電気が通り始める。

後略

さてある日、巳之助がランプの芯を仕入れに大野の町へやってくると、五、六人の人夫が道のはたに穴を掘り、太い長い柱を立てているのを見た。その柱の上の方には腕のような木が二本ついていて、その腕木には白い瀬戸物のだるまさんのようなものがいくつかのついていた。こんな奇妙なものを道のわきに立ててなににするのだろう、^①と思いつつ先にくくと、また道ばたに同じような高い柱が立っていて、それには雀^{すずめ}が腕木にとまって鳴いていた。
この奇妙な高い柱は五十メートルぐらい間をおいては、道のわきに立っていた。

【図鑑の説明】

部屋の主な明かりの変遷

あんどん
行灯

(江戸時代)

油を入れた皿に芯を
浸し、火をつけて使う。

石油ランプ
(明治時代から昭和初期)

行灯より明るい
が、部屋全体を照らす
ほどではない。

白熱電球
(明治時代中期から現在)

明かりが揺れたり消
えたりせず、部屋全
体を照らす。

蛍光灯
(昭和から現在)

白熱電球より明
い。消費電力が少
なく長持ちする。

石油ランプ



●使い方●

- ① つかばに石油を入れる。
- ② ほやを口金から持ち上げて、芯に火をつける。
- ③ 調整ねじで芯の長さを変え、明るさを調節する。
- ④ ほやが黒く汚れたら、口金から外して内側を磨く。

三 あなたは、【図鑑の説明】を読むことで、【物語の一部】の()の中のどの部分についてよく分かるようになりましたか。

よく分かるようになった部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【物語の一部】の()の中のどの部分についてよく分かるようになったのかを明確にして書くこと。

条件2 条件1で取り上げた部分について、どのようなことが分かったのかを【図鑑の説明】の内容に触れて書くこと。

- 3 航平さんの家では、自動車の購入を検討しています。購入を検討しているA車(電気自動車)とB車(ガソリン車)にかかる費用について、航平さんの家での自動車の使用状況を踏まえると、次のようになることがわかりました。

	A車(電気自動車)	B車(ガソリン車)
車両価格	280万円	180万円
1年間あたりの 充電代・ガソリン代	4万円 (充電代)	16万円 (ガソリン代)

航平さんは、A車とB車について、それぞれの車の使用年数に応じた総費用を比べてみようと思いました。そこで、1年間あたりの充電代やガソリン代は常に一定であるとし、次の式で総費用を求めることにしました。

$$(\text{総費用}) = (\text{車両価格}) + \left(\begin{array}{c} \text{1年間あたりの} \\ \text{充電代・ガソリン代} \end{array} \right) \times (\text{使用年数})$$

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (3) A車とB車の総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それをを用いてA車とB車の総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの車の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの車の使用年数と総費用の関係を表すグラフ